

「三成の若者集まろう会」

～ 集まろう 若者がつどい つながる町へ ～

奥出雲町 三成中央公民館

1 三成地区の概要

三成地区の人口は、1月31日現在で、2,098人、世帯数808世帯、高齢化率50%である。

奥出雲町役場仁多庁舎や商業施設もある。自治会単位のつながりも比較的強く、独居老人への声がけや緊急時の対応も確立している。教育施設には、三成幼稚園、三成小学校、高尾小学校、仁多中学校、島根リハビリテーション学院がある。三成中央公民館、町民体育館、農村環境改善センター（図書室併設）があり、22の公民館講座で日々学習に励む住民の姿がある。

2 事業の趣旨

(1) 若者の現状

- ・地域での若者の印象としては、個々での活動はあるものの、地域活動に参加する姿はあまり見られない。
- ・今まで公民館での若者向けの事業は少なく、交流する場所や機会が少ない。
- ・UIターン者の中にはいろいろな経験を積み、地域を支えようという意識をもっている若者もいる。

(2) 現状をふまえて

公民館は、若者の現状をふまえてUIターン者(=保護者)や三成幼稚園、三成小学校、高尾小学校保護者を中心に、つどい・楽しく活動する場づくりに取り組む。

今年度は、子ども達に関わる活動を行うこととし、「子ども達が楽しければ大人も楽しい」「やりたいことを自分たちも楽しむこと」を大切にして事業展開する。

(3) めざす若者の姿

- ・若者のつながりが深まる
- ・地域で活動する若者が増える
- ・地域への愛着が深まる

3 具体的な取組内容

(1) コアミーティング

地域活動に参加する若者の姿があまり見えず、公民館として事業企画に悩んでいたところ、UIターン者の中に地域を支えようという意識を持った若者がいることを知った。個々で活動する地域の若者とのつながりを深めるため、キーマンになってくれそうな人に声を掛け、意見交換を行った。

(2) 元気のでる会

チラシを配る時に友達にも声を掛けてもらい参加を呼びかけた。顔は知っているが初めて話す若者同士もいて終始なごやかな雰囲気顔合わせ会となった。ここで、仲間を誘ってみんなで楽しいことをしたいといった思いを出し合い、参加者同士で共有した。

(3) 作戦会議

“元気のでる会”で思いを共有した若者、子どもを連れてお母さんが集まり、みんなで楽しむために何をするかを話す場を設定した。アイデアを出し合った結果“子どもを連れて食事&遊ぼう”“子どもも大人も楽しもう”をテーマに「楽しもう会」を計画した。公民館は若者と地域団体のやま子会とのつなぎ役となり、参加者が楽しみながら主体的に活動できることを大事に考えた。

(4) みんなで楽しもう会

やま子会所有の炭焼き小屋を会場に、

親子でおにぎり・焼き芋をつくったり、やま子会の炭を使ったバーベキューで若者同士が交流したりする楽しもう会が開かれた。地域講師と共に近くの山を探検しながら自然と触れ合った。若者が率先して声掛けをし、子ども達も自分たちの役割をもらい楽しそうに過ごしていた。チラシも配ったが、若者の呼びかけで初めて参加した親子がいた。



(焼き芋つくりと交流)

(5) 珈琲体験を取り入れた若者の会

地域講師を紹介し、本格的な手焙り珈琲を体験した。子どもと一緒に参加しやすいよう絵本を準備するなど会場のレイアウトを工夫した。初めて声をかけたＩターン者で興味がある人がいたが当日は都合がつかず残念がっていた。参加者は少なかったが自分で焙煎した珈琲を飲みながら、今年度の振り返りや次年度に向けての思いを語り合うことができた。他団体と連携し、親子で体験できる事業で交流を深めるなど、参加を呼びかけた。



(珈琲体験と語り合い)

(6) 若者の興味を引く情報発信

チラシだけではなく若者に届きやすいように SNS の情報発信を行った。また、若者が集う場として利用できるよう公民館の一室を開放し、その部屋の看板を作り、輪を広げる取組を始めた。

4 評価と成果

- (1) 若者の現状として、集いやすい場を設定すれば、反応する若者もいることが分かった。公民館で把握できていなかった若者の意見や思いを聞いた。
- (2) 今までなかった集う場を持つことで、若者同士の新たなつながりが生まれ、何かやってみたいという機運が生まれた。
- (3) 若者がアイデアを出し合い、自分達も楽しみながら活動する姿が見えた。

5 今後の課題と見通し

(1) 課題

- ・若者の参加が少ないので、どうしたら来てもらえるかを若者からアイデアをもらい、内容、参加できる時間等の設定や雰囲気づくりの工夫をする。
- ・三成郷づくりの会等他団体とも連携して、集いの場、活動の場を増やす。
- ・盛り上がった会での若者の思いや雰囲気や次回の会に結び付けることができなかったため、スケジュール感を持ってサポートする。

(2) 見通し

最終ゴールは、事業を行うことではなく、若者が自分たちでアイデアを出して自ら動き出すことである。若者から出てくる「こんなことをしてみると楽しい」という思いがつながり、形になっていくよう、定期的に茶話会を設定していく。

また、公民館の窓口に来た若者に「今度、公民館でこんなことをするので、一緒にしてみない？まあ事務室に入って!! 珈琲を飲みながら・・・」と笑顔で誘い込むことで関係性を高める。

今後も若者・地域の方への声掛けを大切にしながら、場づくりやつなぎ役を公民館で担っていきたい。

(文責：主事 廣田 朗子)